

研修生は日本人の心が理解できる

広い視野を持った人間であれ

石川県かほく市 協同組合アイテック

協同組合アイテックは平成 11 年 12 月に設立され、外国人研修生の受入れは、平成 12 年 4 月から開始しました。これまで受け入れた研修生の総数は約 900 名。現在、研修生 120 名、技能実習生 230 名、計 350 名が繊維加工業及び電子機器組立て業を中心とする 38 社で活躍中です。

この組合では、「より優れた研修・技能実習を行うためには、研修生・技能実習生がより高度の日本語を習得することが不可欠であり、それが企業側にとっても研修生側にとっても有益である。」と考えていて、日本語能力の向上のための色々な取組が組合の特徴となっています。組合では「日本語能力向上委員会」を設置・検討し、その結果を積極的に取り組んでいます。

具体的には

中国での日本派遣前の日本語教育の教育内容を打合せし、その強化を要請。

集合研修での充実した日本語教育の実施。 集合研修では 160 時間の 2/3 は日本語教育に充てられ、中国語教師と日本語教師の特色を十分発揮し、発音は日本語教師の徹底した指導を受けます。またプライドが高い中国人に、「今間違えても少しも恥ずかしがる事ではない。」と言う事を徹底し、日本語を話すように指導している。また『早く日本語を覚えると、日本での生活が楽しくなる』ことを説明して、意欲の喚起に努めている。

自前で定期的に行う日本語試験の実施と日本語能力試験対策の強化。 巡回訪問による指導の他に、年に 4 回フォローアップの日本語試験を実施している。これは日本語教育担当職員が作成し、試験結果は企業にも報告している。

JITCO 日本語作文コンクールの積極的参加等です。

同組合の、このような日本語教育への取組みは、理事長さんの『単なる一人の労働者ではなく、日本語を通じ日本人の心が理解出来る広い視野を持った人間になって貰いたい。それが国際貢献に繋がるのです。』と言う熱い願いは、必ずや花開き実を結ぶと、強く感じた次第です。

双方の気持ちが

通じあえるかどうかが肝心です

石川県能美市 株式会社アサヒゴウセン

小松空港近くの能美市は平成 17 年 2 月に誕生したばかりの新しい市です。能美市は、ニューヨーク・ヤンキースの松井秀喜選手の出生地として有名です。

株式会社アサヒゴウセンは、昭和 40 年創業のスポーツ・インナー・医療・介護用等の合成繊維の生地製造を行っている会社です。

外国人研修生の受入れは平成 13 年から開始し、これまで延べ 36 名を受け入れています。

会社の方の経験から重要なことは、「コミュニケーションの大切さ」で、さらに「双方の気持ちが通じあえるかどうか肝心」との考えから、困ったことがあったら、どんなことでもいつでも相談するようにと伝えてあるそうです。

同社では、日本語教育を熱心に行っており、会社の方が、週 1 回か 2 回、飽きさせないためにゲーム感覚の指導など様々な工夫をしながら日本語教室を行っています。

また、研修生は毎日日誌を書いており、会社の方とのコミュニケーションのツールとしています。日誌は長く続けていると単調になってしまいましたが、研修生の悩みなど「心の中のこと」を書いてもらうのがポイントで、簡単ではありませんが、「ホームシックになって、枕を濡らした」と言う事等が書かれていると、研修生達の悩みなどを知ることができ、フォローしてあげることで信頼関係を形成していますとの事でした。

また、同社は地域との交流にも積極的で、毎年 8 月に 2000 人以上の踊り手が参加する盛大な夏祭「辰口じょんがらおどり」に参加しています。去年は研修生たちがお揃いの浴衣を着て出場したところ、実行委員から「ビックリ賞」を頂き、「あれには、こちらがビックリしました」とのことでした。

成人式にも参加しますが、「近隣の方々からは『アサヒゴウセンの中国人研修生は模範生だ』との評価を得ています」と語る会社の方の笑顔が強く印象に残りました。